

平成27年7月に大船町と石崎町(図1)で環境・生物調査を実施しましたので、結果の概要をお知らせします。作業等の参考にしてください。

- 7月に入り、水温は大船町では20℃台(最高:20.6℃)、石崎町では19℃台(最高:19.4℃)まで上昇しました。
- 大船町ではコケムシ、石崎町ではヒドロ虫類(通称:毛)が多数付着していました。

※今期の道南養殖コンブ情報は次期の種苗の沖出し時期に合わせて再開し、情報は平成27年度のページに更新します(<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/skhn140000016dl.html>)。



【調査概要】

今回は7月15日に大船町で、7月16日に石崎町で調査を実施しました。コンブ養殖施設付近で、水温、塩分、光量等の水深10cmごとの鉛直分布を測定するとともに、水深0、5、10、20m層で採水し、後ほど無機栄養塩濃度(窒素、リン等)の分析を行います。また、養殖施設(コンブ育成水深)に設置した、自動的に連続してデータが記録される水温・塩分計、深度計、照度計のデータ(平成27年6~7月分)を回収しました。

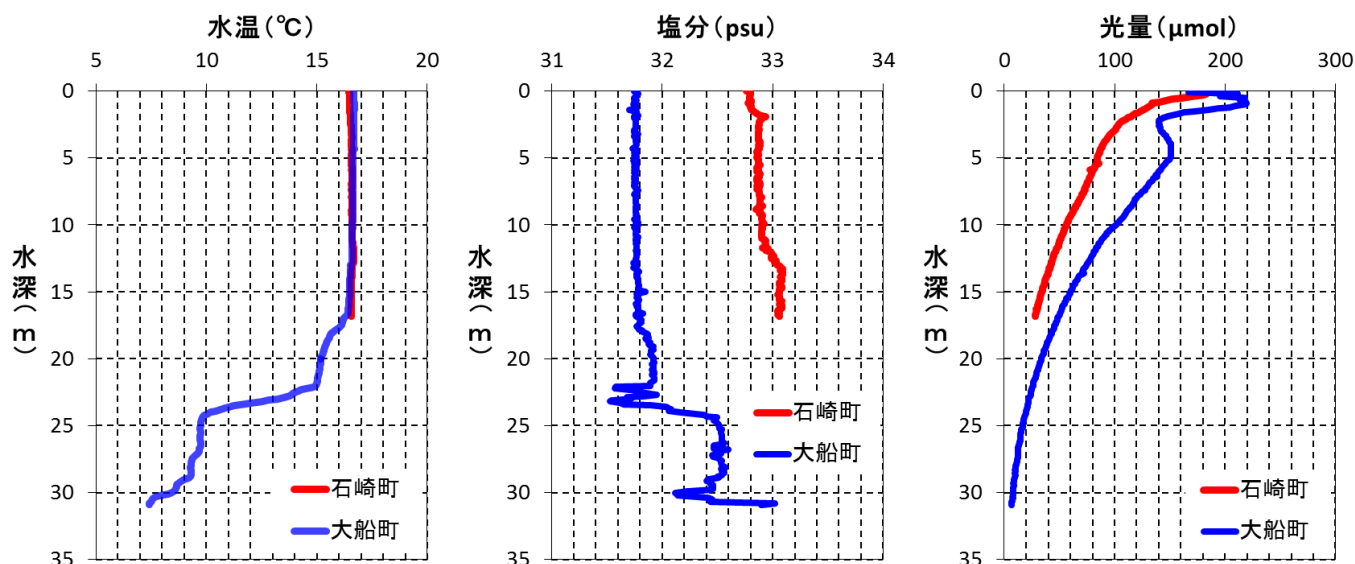


図2 コンブ養殖場(沖側)における水温、塩分、光量の鉛直分布(大船町 H27.7.15、石崎町 H27.7.16)。

【結果の概要】

- 水温：両地点とも水面から水深 17m 付近まで 16℃台で推移しました（図 2）。大船町ではそれ以深から低下し、水深 30m では 8℃以下となりました。7 月に入り、大船町では 20℃台（12.2～20.6℃）、石崎町では 19℃台（12.4～19.4℃）まで上昇しました（図 3）。
- 塩分：大船町では 31.5～33.0、石崎町では 32.8～33.1 でした（図 2）。大船町では水温が低下しはじめると水深から上昇する傾向が見られました。
- 光量（調査時の天候、大船町：曇り～晴れ、石崎町：曇り～晴れ）：大船町では水面直下の光量は 219.7 μmol、石崎町では 193.0 μmol でした。両地点とも低い値でしたが、これは調査時の天候によるものです。連続観測で得られた結果では、7 月の晴天時では、大船町で 1292.9 μmol、石崎町で 528.6 μmol でした。
- 促成マコソブの生育状況：大船町で 229～560cm、石崎町は 580～1120cm でした。平均葉長は、大船町では 398cm（前年 7 月の平均葉長：565cm）、石崎町では 854cm（前年 7 月の平均葉長：967cm）でした。両地点とも乾燥歩留りは昨年並みまで増加していました。大船町ではコケムシ、石崎町ではヒドロ虫類（通称：毛）の付着が目立ちました。穴あき症の発生はありませんでした。

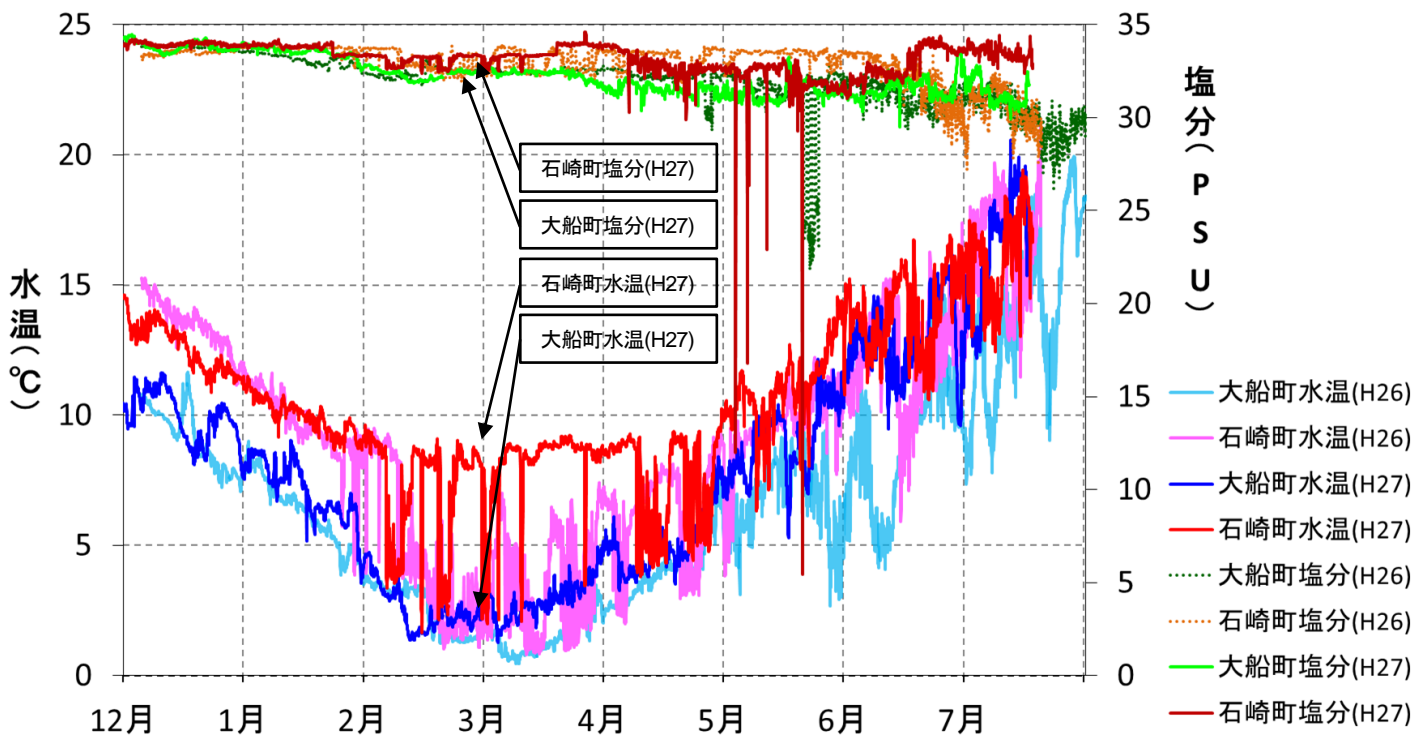


図3 コンブ養殖場における水温、塩分の推移

平成 27 年の水温、塩分の測定データに平成 26 年の測定データを重ねて表示しました。データは 1 時間ごとの測定値を示します。

【用語解説】

- 「塩分の単位 psu」：実用塩分単位（Practical Salinity Unit）の略。海水 1kg に何 g の塩分が溶けているかを示し、標準海水に対する電導度の比から求めます。
- 「光量」：光子束密度（1 m²、1 秒当たりのモル数（1mol=アボガドロ数 6.02×10²³個））。約 50～70 倍すると照度（lux）の値となります。

本調査は、関係漁業協同組合、市、町、渡島総合振興局、水産技術普及指導所等と連携して実施しております。内容に関する事、その他情報等ありましたら、最寄りの関係機関、または函館水産試験場までご連絡ください。

【お問い合わせ】

〒040-0051 函館市弁天町 20 番 5 号
 函館市国際水産・海洋総合研究センター内
 Tel. 0138-83-2893（調査研究部） Fax. 0138-83-2849
 この内容は以下のホームページでも公開しています。
<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate>
 （担当）前田

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
 水産研究本部 函館水産試験場 調査研究部
 Hokkaido Research Organization (HRO)
 Hakodate Fisheries Research Institute